

廃炉作業中の東海原発と東海第二原発視察

上野たかし県議・小池えつ子市議予定候補ら

建設から37年。老朽化が目立つ東海第二原発

上野たかしら3人の党県議と地方議員団・小池えつ子市議予定候補は2月4日(水)、東海第二原発の原子炉建屋や廃棄物貯蔵施設、取水口や防潮壁などを約3時間かけ視察。施設の各責任者から説明を受けました。2001年に解体工事に着手し、現在も廃炉作業中の東海(第一)原発から出る放射性廃棄物11万3千の埋め立て予定地を視察。「深さ5メートルの素掘りの穴を掘り、ビニールや鉄などに入れ土で埋め、駐車場として利用する予定です」の説明に、「おおよその濃度は?」と聞くと、「核種によって違います。コバルトで言えば10の7乗ベクレルです」と答えがありました。大変な放射線量です。

視察後、「廃棄物の処理がずさん」「37年目の第二原発の施設の老朽化が目立つ」「新たな防潮壁は津波に耐えられる保障があるのか?」などの声が出されました。改めて「第二原発の再稼働など論外」「原発は人類と共存できない」と痛感しました。



くらし平和を守る日本共産党。小池えつ子さん加え市議会第一党へ

4月26日 市長選、市議補欠選挙の投票日です。

市民の声で動く市政への転換を

平和のために行動し続けたい

小池えつ子

今年は戦後70年の節目の年です。安倍政権は集団的自衛権行使のための法律の整備を進めようとしている中で、今回のイスラム国の問題と合わせて、日本を「戦争する国づくり」へと国の在り方を大きく変えようとしています。

私は、戦争は絶対反対です。9条を守り市民の皆さんが安心して暮らせる平和な社会のために全力で頑張ります。

誰もが安心の医療・介護制度を

これまで医療や介護の職場で事務職員として働き、そのうち12年間は、医療生協・民医連の事業所で仕事や活動、労働組合運動など様々な経験を積むことができました。一人ひとりの人生を輝かせるための地域づくりをすすめる医療生協の在り方と「命の平等」を掲げた民医連の事業運営の在り方に、確信と誇りを持って働いてきました。

誰もが健康で安心して暮らせる社会・取手とするために私も頑張ります。



小池えつ子市議補欠選挙予定候補

4月におこなわれる全国一斉地方選挙。市民のくらし・福祉・安全など、市民生活に左右する身近な選挙です。同時に、今回は「アベノミクス」の地方への波及」と称し、消費税増税、くらし、福祉、中小企業、農業破壊を進める安倍政権に対し、市民本位の「地方再生」の対案を示して戦う選挙でもあります。取手では、市長選、市議補欠選挙(定数2名)が4月26日投票でおこなわれます。

市長選については、幅広い市民のみなさんと共同し、市政転換へ全力で取り組めます。日本共産党は市議補欠選挙では、医療の仕事に携わってきた小池えつ子さんを擁立し、5人の市議団を確立し市議会第一党となり、福祉、くらし、子育て安心の取手とするため、みなさんと力を合わせます。ご支援をどうぞよろしくお願い致します。

小池えつ子 プロフィール

1975年 鉾田市生まれ(39才) 1998年 聖徳大学卒業。卒業後、県土木事務所など勤務。2002年 茨城保健生活共同組合・城南病院、2010年から取手市のあおぞら診療所に勤務し、2014年10月退職。取手市台宿在住。

県議長に議会改革を申し入れ

1月16日の臨時県議会後、上野たかしら3人の党県議団は議会での発言規制の撤廃等を求め議長に申し入れを行いました。寄せられた署名は短期間にもかかわらず2000筆(内取手分は1000筆)を超えました。ご協力有難うございました。

「議会が県民の負託にこたえ、県民の要求を取り上げ、チェック機能を発揮するうえで、議会運営の改善が求められます。県民の多様な意見を活発に議論し県民に情報と問題点をあきらかにしていく上で、本議会での発言規制の撤廃は不可決」と申し入れ。

議長は「各党派の意見を聞いて進めていきたい」としました。しかし、1月30日の議会運営委員会では、「現状どおり」としました。引き続き議会改革にみなさんと力を合わせます。



細谷議長(右)に申し入れる(左から)上野、江尻、山中の3県議

年間40人の一般質問制限は撤廃を 言論の府としての県議会に



上野たかし県議会議員

命いちばんに思う政治を

初めて原子力施設の内部まで入った視察(2/4、東海第二原発)やJA県中央会との懇談(2/9)。国会で審議されている介護保険、農業分野の大改悪がどのように現場に現れているのか、山中たい子県議団長と農業団体や介護施設へ勉強に行ってきました(2/10)。

同日、守谷市に出来た暴力団事務所で多くの組員の出入りがあると聞き、守谷市民や弁護士さんたちと「監視」活動にも参加してきました。

介護施設では理事長さんが、「介護では負担増と施設からの追い出し。医療も重篤患者ですら入院制限が敷かれて、『金のないものは早く死ね』と言われているようだ」と話してくれました。懇談後に施設の中を案内していただきました。入所者の目線で働く若い介護士たち。「普段はデイサービスを利用している方も、いざ家族がお葬式やご不幸など家庭の事情で『明日から4日間、ショートステイに入れないか』と切実に訴えてこられます。こういう声に答えるのが私たちだと思っています」と施設長さん。「なんと誇り・責務を持って働いていらっしゃるのか!」と心を熱くしました。

介護に果たす県の役割は大きいものです。安心できる介護制度とするためがんばります。

未来は君たちに任せた

取手一中の立志式(1/30)。「武士社会が行っていた元服の儀にちなみ中学2年生で行われる行事」です。自分を振り返れば、大人と子どもが同居していた頃。一中の生徒達は精一杯「大人」になって、「こんな弱い自分の“ここ”を変えたい」と決意、目標、夢を発表してくれました。「未来は君たちに任せた!君たちならだいじょうぶ」と思えた式でした。

子どもの甲状腺検査の実施を 取手市に申し入れ

2月2日 署名 1,043 筆を提出

上野たかし県議、小池えつ子予定候補、市議団は、2月2日取手市長に対し、取手市として子どもの甲状腺検査の実施を求め、寄せられた署名 1043 筆を添え要請しました。市からは、副市長、健康福祉部長、まちづくり振興部長、放射能対策課課長、保健センター長等が対応しました。

福島原発事故により取手市は、放射能線量が高い「ホットスポット」とされ、子どもたちへの内部被ばくの心配は払しょくできません。すでに他市町村で実施されている甲状腺検査の例を示し、早急な市の対応を求めました。しかし市は、「市独自でやる必要はない」「放射線によるリスクを心配し、かえって病気にな



甲状腺検査の実施を求める署名を提出(取手市役所内)。

ってしまう、正しい判断を持ってもらいたい」などの答弁を繰り返すだけ。原発事故の収束の見通しも立たず、健康への心配が深まる中、子どもたちの健康調査は待たなしです。日本共産党は、引き続き健康調査実施を求めてまいります。



「戦争する国づくり」をゆるさない取手大行動

2月8日「戦争する国づくり」をゆるさない取手大行動(丸山敏郎・宮本広美実行委員会代表)(パートⅢ)が行われました。降りはじめた雨の中、取手駅東口前広場に市内11団体、70人の市民が参加しました。「イスラム国」の日本人殺害テロに厳しく抗議、テロを口実にした自衛隊派遣を許さない」との主催者あいさつ。取手9条の会、日本共産党から小池えつ子市議補選予定候補らが次々とスピーチを行いました。

青年のリードで「集団的自衛権行使ノー、憲法9条守れ、沖縄新基地建設ストップ」のコールを。トランペット・コカリナの合奏、「沖縄を返せ」のトランペット演奏が駅前に響きわたりました。